

共同研究「戦後憲法と集団的自衛権」 2015年度活動報告

渡 部 純

今年度は、複数回の研究会を開催した他、大きな調査旅行を行なうことができた。

研究会

2015年

第1回

6月24日

報告者：畠山弘文

主 題：文明・国家・近代——社会科学における歴史三分法（古代・中世・近代）のイデオロギー性

第2回

7月29日

報告者：渡部純

主 題：戦後憲法とイデオロギー対立

第3－5回

12月9日

報告者：畠山弘文

主 題：神島二郎の政治学的可能性——文明論的開示

報告者：毛桂榮

主 題：中国的な「政治」の概念

報告者：渡部純

主 題：戦いと尊厳の物語

2016年

第6回

1月23日

報告者：六辻彰二（本学非常勤講師）

主 題：イスラム国と『文明の衝突』

共同研究：戦後憲法と集团的自衛権

第7回

3月16日

報告者：葛谷彩

主 題：20世紀ドイツの国際政治思想・アメリカの社会科学批判・「歴史の回帰」——研究の回顧と展望

いずれの研究会においても、メンバーは、それぞれの専門の知見に基づきつつも、その枠を超えたインタディシプリナリーな討論を行なうことができた。その成果の一部は、下掲の論文に示されている。

調査旅行（合宿）

2016年3月

沖縄県渡嘉敷島（いわゆる「集団自決」の跡）、本島普天間・嘉手納・辺野古（米軍基地とその移設予定地）

社会科学の研究においては、文献による考察と共に、その現場を訪ねてみるのが、大きな意味を持つ。戦後日本の憲法体制の形成にとってもっとも重要な場所である沖縄は、かねてより本研究会での研究主題の焦点の一つとなっていたが、今回、ようやく訪問の機会を得た。

70年前の激しい戦闘の跡地を、実際に自分たちの足で歩き回ったことは、社会科学的探求に不可欠の「現場感覚」を養う上で、大きな意義があった。また、21世紀に入ってから日本政治の最大の焦点の一つとなっている沖縄米軍基地について、現場の様子及びそれを取りまく住民の態度を調査することができたことも、収穫であった。

この調査結果については、メンバーの個々がそれぞれの主題に即して、現在、研究を進めているところである。

研究成果（一部）

明治学院大学『法学研究』100号には、共同研究の成果であるメンバーの論文が掲載されているので、ここで紹介しておく。

畠山弘文「「簡便簡略な国家史」論の社会科学的位相」201-246頁。

毛桂榮「中国政治協商会議」247-308頁。

渡部純「戦いと尊厳の物語」309-365頁。